（様式８）
(Attached Form 8)

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博　士　（　学　術　）	氏名 Author	HENRIQUEZ MILLON ADRIANA MARIA
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目　Title of Dissertation
Peace Education in Hiroshima: Case Study of a Female High School

論文審査担当者　Dissertation Committee Member

主　　査	Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教授	川野　徳幸　印 Seal
審査委員	Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授	市橋　勝
審査委員	Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授	関　恒樹
審査委員	Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授	片柳　真理
審査委員	Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	中矢　礼美

〔論文審査の要旨〕Summary of Dissertation Review

本論文は、広島女学院中学高等学校における平和教育を事例に、平和教育の現状と課題、そしてその可能性を論じたものである。第一章では、本論文の意義、目的、研究課題及び本論文の構成について言及し、第二章では先行研究から「平和」の定義、平和教育の歴史、現状などを概観する。同時に、この研究で使用される重要な用語の定義についても説明している。第三章では、特に、日本の戦後の歴史・文化に基づく、日本及び広島の平和教育の歴史的背景・現状を論じる。第四章では本研究で用いる分析手法である質的研究手法について詳述し、第五章では広島女学院中学高等学校で実施したアンケート調査の結果及び考察を行った。生徒に対するアンケート調査では、70%の生徒が平和教育の授業に好意を持つことが明らかになった。他方、好きではないと答えた学生は、授業で使われた資料から恣意的な価値観や意見の強要が感じられたことや、授業で使われた悲惨な画像や映像を見るのがつらかったこと、などをその理由として挙げていた。また、学校生活やその他の日常生活において、平和教育での学びが役立つかという問いに対しては、75%がそうであると回答していた。自由回答からは、広島・長崎・沖縄からみた日本の歴史や、核兵器に関する学習、カンボジア・韓国の戦時下の体験談、模擬国連などの異なる角度からの学びにより、広島が抱える歴史的背景や戦後の混乱から復興した平和都市「ヒロシマ」としての役目を理解することができたという意見もあった。本稿では、こういったアンケート及び自由回答の分析・考察から、平和教育が生徒に多大な影響を与えていることを明らかにしている。他方、教師に対するアンケートでは、96%の回答者が平和教育のカリキュラムに対し、総合的に評価していることが明らかになった。また、アンケート及び教師に対するインタビューから、教師は平和教育において communication skill に最も重点をおいている実態も明らかにした。最終章では、本研究で得られた知見、研究課題に対しての意義、本研究の限界・今後の課題をまとめている。

以上の内容に対し、審査委員からは、論文としての体裁をさらに整えること、なぜ広島女学院中学高等学校を本研究の対象としたのかについてもう少し丁寧に説明すべき、

limitation と Delimitation の違いを明確にすべき、学習指導要領を再確認し、いくつかの専門用語の使い方を再確認すべき、との意見が出された。これに対し、論文提出者は修正・加筆を行い、その後、審査委員もそれらを確認して了承した。

このような内容を持つ本論文は、平和教育の現状と課題、そして平和教育の可能性について論じた学問的に非常に大きな意義がある研究として評価され、審査委員一同の合意のもと合格と判断された